



令和5年度懇談会の論点

-
1. 高齢者の住まいの方向性
 2. 令和4年度 第7回懇談会の議論
 3. 第8回 懇談会における論点



1. 高齢者の住まいの方向性

■住生活基本計画(全国計画) (令和3年3月19日閣議決定)

居住者・コミュニティの視点

目標4

多様な世代が支え合い、高齢者等が健康で安心して暮らせるコミュニティの形成とまちづくり

(1) 高齢者、障害者等が健康で安心して暮らせる住まいの確保

【基本的な施策】

- 改修、住替え、バリアフリー情報の提供等、高齢期に備えた適切な住まい選びの総合的な相談体制の推進
- エレベーターの設置を含むバリアフリー性能やヒートショック対策等の観点を踏まえた良好な温熱環境を備えた住宅の整備、リフォームの促進
- 高齢者の健康管理や遠隔地からの見守り等のためのIoT技術等を活用したサービスを広く一般に普及
- サービス付き高齢者向け住宅等について、地域の需要や医療・介護サービスの提供体制を考慮した地方公共団体の適切な関与を通じての整備・情報開示を推進

(2) 支え合いで多世代が共生する持続可能で豊かなコミュニティの形成とまちづくり

【基本的な施策】

- 住宅団地での建替え等における医療福祉施設、高齢者支援施設、孤独・孤立対策にも資するコミュニティスペースの整備等、地域で高齢者世帯が暮らしやすい環境の整備
- 三世代同居や近居、身体・生活状況に応じた円滑な住替え等を推進。家族やひとの支え合いで高齢者が健康で暮らし、多様な世代がつながり交流する、ミクストコミュニティの形成



2. 令和4年度 第7回懇談会の議論（事例選定の視点）

■ 住生活基本計画（全国計画）

目標4 多様な世代が支え合い、高齢者等が健康で安心して暮らせるコミュニティの形成とまちづくり

（1）高齢者、障害者等が健康で安心して暮らせる住まいの確保

○改修、住替え、バリアフリー情報の提供等、高齢期に備えた適切な住まい選びの総合的な相談体制の推進

○エレベーターの設置を含むバリアフリー性能やヒートショック対策等の観点を踏まえた良好な温熱環境を備えた住宅の整備、リフォームの促進

○高齢者の健康管理や遠隔地からの見守り等のためのIoT技術等を活用したサービスを広く一般に普及

○サービス付き高齢者向け住宅等について、地域の需要や医療・介護サービスの提供体制を考慮した地方公共団体の適切な関与を通じての整備・情報開示を推進

（2）支え合いで多世代が共生する持続可能で豊かなコミュニティの形成とまちづくり

○住宅団地での建替え等における医療福祉施設、高齢者支援施設、孤独・孤立対策にも資するコミュニティスペースの整備等、地域で高齢者世帯が暮らしやすい環境の整備

○三世代同居や近居、身体・生活状況に応じた円滑な住替え等を推進。家族やひとの支え合いで高齢者が健康で暮らし、多様な世代がつながり交流する、ミクストコミュニティの形成

■ 先行事例の紹介

講演①

北海道における高齢者住まい相談・情報提供の取組

⇒住まいの相談の現場における変化（高齢者の自己決定の状況、住まい探しの方法は？）

⇒サービス付き高齢者向け住宅のポジショニング

講演②

サービス付き高齢者向け住宅における暮らしと健康維持の関係性の検証

⇒高齢者が、最期まで自分らしい生活を送るために、カラダとココロの両方から健康維持・増進を図る取組の展開



2. 令和4年度 第7回懇談会の議論（とりまとめ）

■とりまとめ（特に第8回に繋がる意見）

●高齢者の社会性の低下・喪失の回避が重要

- ・高齢者と家族、地域との関係性（いわゆる社会性）の低下・喪失が、高齢者の介護度の悪化に繋がる。住み替えや要介護化による**社会性の低下・喪失を回避することが、健康維持に重要**となる。

●高齢者向け住宅と地域との連携による、高齢者の社会性の補完

- ・入居高齢者の健康寿命の維持のために、住宅内のサービスやアクティビティばかりでなく、介護サービス、コミュニティなど**地域と連携した機能補完により、社会性の維持**を図ることも考慮できる。**地域におけるサ付住宅など高齢者向け住宅のあり方を検討**すべきである。

●フレイル予防等の重要性

- ・要介護前のフレイル予防、認知症の予防が重要であり、高齢者向け住宅における**入居者の社会参加、食事や運動などの取組は重要**である。
- ・高齢者の多くは、期間は短くとも必ず要介護状態を経て亡くなるので、高齢者や家族のためにも**最期まで見守る関係性の構築**にも取り組んでほしい。

●健康増進に係る取組の効果検証の広がり

- ・学術研究等と連携した**健康増進の効果検証の取組**は、入居者が今後求めるニーズの把握に役立つものであり、他の高齢者向け住宅においても、**同様の取組が広がる**ことが望ましい。



3. 第8回 懇談会における論点（テーマ設定）

【政策の方向性】

- (1) 高齢者、障害者等が健康で安心して暮らせる住まいの確保
 - ・高齢期に備えた適切な住まい選び、高齢者の健康管理等のためのサービスの普及 等
- (2) 支えあいで多世代が共生する持続可能で豊かなコミュニティ形成とまちづくり
 - ・地域で高齢者世帯が暮らしやすい環境整備、身体・生活状況に応じた住替え、多様な世代のつながり交流 等

【第7回 懇談会の議論を受けて】

- ・高齢者と家族、地域との関係性、いわゆる社会性の低下・喪失の回避が、健康維持に重要。
- ・住宅内ばかりでなく、地域との連携により、社会性の維持を図ることも考慮できる。
- ・要介護前のフレイル予防等が重要であり、入居者の社会参加、食事や運動への取組は重要。学術研究等と連携した健康増進の効果検証について、同様の取組が広がることが望ましい。

【第8回 懇談会の論点（テーマ）】



論点① 自立高齢者の健康寿命の延伸に係る効果的な取組とエビデンスの収集

論点② サ付住宅における地域交流の取組の展開について



3. 第8回 懇談会における論点（議事の内容）

論点① 自立高齢者の健康寿命の延伸に係る効果的な取組とエビデンスの収集

- 健康寿命の延伸に係る取組について、**学術研究等と連携し効果検証を行っている事例を収集及び分析**
- そのうち、代表的な取組（3事例）の共同研究の成果を基に、**共同研究を行う有識者、懇談会に参加する委員による情報交換及び議論**を実施（令和5年1月23日 意見交換会を開催）
- ⇒本日は、その議論をもとに、健康寿命の延伸に係る取組の効果を紹介するとともに、**入居者及び地域の高齢者の健康増進に向けた、更なる展開の方向性**について議論

論点② サ付住宅における地域交流の取組の展開について

- サービス付き高齢者向け住宅は、約28.5万戸が登録されており、このなかで地域交流施設の整備が進められてきたところ
- ⇒そこで、地域交流の取組を行うサ付住宅の事例を収集し、その**取組の状況や効果等**を整理
- ⇒本日は、その好事例として、サンタハウス弘前公園（弘前報徳会が運営）による、**地域行政と連携した、街なかにおけるシニアのサードプレイスづくり**について紹介するとともに、サ付住宅における地域交流の取組の展開について議論